会　　議　　録

会 議 名		平成２６年度第３回市史編さん委員会
事 務 局		教育委員会生涯学習課
開催日時		平成２７年２月１６日（月）午前１０時～１１時２０分
開催場所		市役所第二庁舎８０２会議室
出席者	委　員	出席（根岸委員長・小野副委員長・井上委員・牛米委員・中嶋委員・山本委員）
		欠席（林委員）
	事務局	石原課長・髙木主事・伊藤主事
傍聴の可否		◎可・不可・一部可
		傍聴者：なし
不可の理由		

会　議　次　第

報　告

１　２６年度事業について

（１）古文書調査委託（梶野家文書）について

（２）『小金井市史編纂資料第５４編　光明院文書』の発行について

（３）古文書講座の開催について

２　部会の活動について

（１）現代部会

（２）近代部会

（３）近世部会

３　市民協力員の活動について

４　その他

議　題

１　今後の事業計画について

（１）資料編『現代』の発行について

（２）考古部会の立ち上げについて

（３）通史編の発行に向けて

（４）その他の事業について

２　次回の会議日程

平成２７年５月１８日（月）１０：００～

会　議　内　容　（概要）

（委員長）平成２６年度第３回市史編さん委員会を開催する。事務局から報告をお願いする。

１　２６年度事業について

（事務局）部会活動以外の２６年度事業について報告する。

（１）古文書調査委託（梶野家文書）については、今年度も引き続き根岸委員長に委託して実施している。

（２）『小金井市史編纂資料第５４編　光明院文書』の発行については、「小金井古文書の会」が２年かけて翻刻したものを事務局で編集・校正し、現在印刷中である。Ａ４版１８７頁。小金井古文書の会は、文化財センターの古文書講座受講者が中心となって結成された自主学習団体で、これまで、小川家文書・武蔵野市立図書館旧蔵（諸家）文書・星野家文書の翻刻を行ってきた。現在、梶野家文書の後半部分を翻刻している。

（３）古文書講座は、２月２８日（土）・３月１４日（土）・３月２１日（土）の３回実施する。講師は、近世部会の調査員の岩橋清美さん（第１回）、根岸茂夫委員長（第２回）、吉岡孝さん（第３回）。小金井地域の近世古文書をテキストとし、初心者向けの入門講座を予定している。

（４）文化財講演会は、１月３１日（土）に実施した。講師は、編さん委員の牛米努さんにお願いした。内容は「地券に見る地租改正」で、明治初年の租税改革とそれに伴う紙資料としての「地券」にまつわる興味ある話をされた。

【質疑･意見】

（根岸委員長）梶野家文書の翻刻は３年目になったが、村入用帳など手間がかかる資料が多く、翻刻に時間がかかっている。また、虫損のひどいものが多く、翻刻に苦労している。

２　部会の活動について

（１）現代部会の活動

（中嶋委員）調査員４人で分担して資料収集を行い、月１回部会を開催し、構成案について検討している。今のところ、５章立てで、第１章が戦時体制下のなかの小金井（１９３７～４５年）、第２章が占領と民主化のなかの小金井（１９４５～５８年)、第３章が市制施行と高度経済成長（１９５８～７１年)、第４章が都市社会における住民生活の確立をめざして（１９７１～７９年)、第５章が今日の小金井へ（１９７９～２０００年）としている。第３章以降は１節政治･行政、第２節生活・経済、第３節教育･文化に分けているが、第１・２章は、時系列に配置している。

第１章１節が町制施行、第２節が戦時下の暮らし、第３節が空襲、第４節が

皆木日記にみる戦時期の小金、第２章以降は、添付資料どおりの構成を考えている。重点として、政治行政の資料を入れると同時に市民生活を重視したい。他に歴史認識、遊び、社会教育、学校教育の問題を重視していきたい。例えば、「わんぱく夏まつり」等を考えている。

【質疑･意見】

（山本委員）時代区分の境目について、第１章が１９４５年まで、第２章が１９４５年からとなっているが、この場合、重複している１９４５年の出来事はどちらの章に入れるのか。他の章の場合も同じだが、どう時期を区分するのか。

（中嶋委員）１章と２章の境目は、終戦記念日の８月１５日が境となる。年度が変っても前後する場合があり、大まかな区分と考えていただきたい。

（山本委員）第３章に文教都市、第４章に教育と文化の項目があるが、他の章には、教育の項目がない、他の章にも教育に関する資料があると思う。このわけ方で網羅できるのか。

（中嶋委員）第５章第３節の多様化する価値観の中には、公民館や社会教育が入っており、教育分野を包括した形で作っている。この時期を象徴する言葉として「多様化する価値観」としたが、表題については、見直すこともありうる。

（山本委員）時代によって抜け落ちる項目はないということか。

（中嶋委員）そのように考えて資料を選択している。

（２）近代部会の活動

（牛米委員）平成２５年度に資料編を刊行してから、通史に向けた章立てを行っている。通史編の構成は、資料編と違って項目を縮める必要があるので、月１回部会を開催し、調整を図っている。基本的には今までに調査したもので記述することになるが、資料がないもの、資料に入れづらいもの、抜け落ちているものがあるので、追加調査が必要なものについて、勉強会を通じて明らかにしている。こういう活動を通じて、通史編の構成を検討している。

（３）近世部会の活動

（根岸委員長）現在、月に１回部会を開いており、文化財センターで現物の史料を確認しながら、掲載史料の選択を行っている。部会のメンバーは６名である。時代は、天正１８年（１５９０）、後北条氏が滅び、徳川家康が江戸に入った時から関東の近世史が始まるので、それから慶応３年（１８６７）の大政奉還までを対象とする。明治初年のものでも、近代編と重複しない史料を入れる可能性はある。全体的な考えは、この地域にどのように自治の伝統が生まれ、形成されてきたかを柱とし、その中で地域がどのように広がっていったか、また他の地域とどう繋がっていったかという自治の伝統と地域の形成を第１の柱としたい。第２には地形と景観が重要になってくる。近世の初めに、はけの下（低地）に貫井村･小金井村ができ、１７世紀の終わりに小金井村が上小金井村と下小金井村に分かれ、だんだん村が拡大していった。さらに、水田中心の

村から台地の上に畑を作りながら、地域を伸ばしていった。これを画期に、玉川上水ができてくる、さらに、享保改革の新田政策の中で、台地の上に新田ができ、地域が広がる。水田中心の村から畑作中心の村に変わることによって、産業構造･労働･年中行事なども変わってくる。村の景観の変化は、近代になって都市化する前提にもなってくる。そうした変化の中で、人々は知識を蓄えながら成熟していく、また産業の発展の中で商品経済もつくられていく。さらに、玉川上水沿いが桜の名所になって江戸と結びついていくようになる。こうした変化をとりこみながら全体を構成していきたい。さらに、文書がどのように作られ、機能したかという村の行政や人々の意識の問題、文字を使って俳句をつくるといった文化のありかたや教育の問題も扱う。

資料編の観点は、１番に自治の伝統と地域の形成、２番目に景観の変化、３番目に人々の生活や意識の変化、４番目に文書や識字能力の問題がある。こうした観点から資料編を構成したい。

具体的な資料編の構成案（別添資料）について説明する。（１）野川沿いの村々の形成であるが、１７世紀の資料は、検地帳と年貢割付状だけだが、少ない資料の中でこの時代を見ていく。（２）１８世紀に入り台地の開発が進み、近世の典型的な村が誕生する。（３）村の姿や、（４）村の仕組みや文書、（５）領主との関係での村の負担の問題がある。（６）以降は、１８世紀後半から１９世紀にかけての村の拡大や変化を扱う。（７）産業の発展、（８）広がる地域、江戸とのかかわり、（９）家と村人の一生、（１０）信仰･祭礼･旅で、道中日記を利用しながらこの地域の人々がどう見聞を広めていったかを見ていく。（１１）は、村の教育や文化、貫井の鈴木家文書などに俳句の資料があり、資料編にどう取り込むかが今後の課題になる。そういうなかで、（１２）地域に近代が芽生えていくが、黒船が来たか、勤皇の志士がいたからというのではなく、地域の中に近代につながる人々の意識や基盤が醸成されていたからこそ様々な問題を成熟させて近代を受け入れることができた。また、幕末の治安の悪化や政情不安等も合わせながら考えていくのが近世資料編の全体構成である。

以前に示した構成案は、１０章立てで、３・４・５章を一緒していたが、調査員が６人になったので、１２章に分け、２章ずつ分担することになった。

【質疑･意見】

（山本委員）１０章の竈〆とは何と読み、どういう意味か。

（根岸委員長）「かまじめ」と読む。竈〆とは、年末や年始に神社やお寺から御札や注連縄に飾る御幣などをいう。これをどの神社からどんなものをもらったかが分る資料（光明院文書）があり、各家に祭られていた屋敷神や当時の信仰が分る。他の地域にはないもので、貴重である。また、修験は、山伏（里修験）と呼ばれ、村の中に坊があったが、明治になると寺か神社に変った。

（牛米委員）竈〆については、近代資料編でも、神仏分離令に関係する資料として

入れている。寺の別当が還俗して神主になったり、修験が神主や僧侶になったりしたことが明治の初めにあったが、単に制度が変ったというだけでなく、信仰している地元の人々の関係で変わった。その点は、近世と近代とのつながりがある。

（根岸委員長）近世と近代の信仰の大きな違いは、例えば、八幡宮は宮寺といって宮司がいなく僧侶（社僧）が別当を勤めた。鎌倉の鶴岡八幡宮は、周囲に二十一坊があり、各寺の住職が交代で宮司を兼務する仏教的な神社であった。大銀杏の前に大きな仏塔があったが、廃仏毀釈で取り壊され、仏像や経文も焼かれてしまった。日光東照宮も同じで、隣に大楽院という寺があり、僧侶（別当）が宮司を兼務し、社家（宮司）は、僧侶の使用人の立場であったが、明治の廃仏毀釈により、大楽院が廃され、新たに神主（社掌）が置かれた。近世の信仰は、神道と仏教が一体であったが、近代になって分離し、国家神道により日本人の信仰が大きく変化した。勧化（かんげ）は、勧進（かんじん）ともいい、お寺や神社が寄付を募ることで、小金井にも資料がある。それによって当時の信仰圏が分るので、入れている。

（山本委員）江戸時代、キリスト教は、この地域に及ばなかったのか。

（根岸委員長）小金井にはキリスト教は及ばなかった。

（井上委員）市民協力員の報告の中に、小金井のキリスト教伝道があるが。宗派は何か。

（事務局）小金井におけるキリスト教の伝道は、明治になってからである。宗派については、調べてお知らせする。

３　市民協力員の活動について（事務局）

市民協力員は、市史編さん大綱の市民協働の方針に基づき設置したもので、平成２２年度から畑野時夫さんに委嘱し、調査を継続してきた。畑野さんは、以前から市域の歴史に関し、独自の調査を行っており、地域の事情に詳しいことから協力員に委嘱した。調査内容は、主に明治２２年から昭和２０年までの小金井市の詳細年表の作成、在住の文化人等の経歴調査を中心に多岐の調査項目に及ぶ。（添付資料のとおり１７項目・説明省略）

事務局で調査内容の一覧表（エクセルデータ）を作成し、インデックスを貼付した。ファイルを文化財センターに置くので、利用していただきたい。

【質疑･意見】

（牛米委員）年表は、資料編でも利用した。通史編でも使いたいが、電子データがあるか。

（事務局）ワープロ（オアシス）で入力し、成果物はプリントしたものである。電子データはない。

（牛米委員）昭和戦前期の昭午会については、資料集に名簿を載せた、部会にも調査担当者がおり、今後の調査に役立てたい。

（中嶋委員）協力員の集めたものは、資料（文書）なのか、どういう形のものか。
（事務局）原資料そのものではないが、年表などは、もとの資料にあたり調査しており、出典を明記している。調査のためのインデックスとして利用できると思う。文化財センターに置くことにしたい。
（根岸委員長）市民協力員の成果物を資史編さん資料集として発行できないか。
（事務局）年表等、内容を整理すれば、資料集として発行できるものもあると考えている。

議　題
１　今後の事業計画について（事務局）
（１）『資料編　現代』の発行について
来年度、『資料編　現代』の発刊を予定している。１０月頃までには入稿したいので、現代部会の皆さんには、よろしくお願いしたい。
（２）考古部会の立ち上げについて
来年度から考古部会の活動を開始する予定であり、人選について事務局で検討を行っている。
（３）通史編の発行に向けて
通史編は、当初、平成２９年に上巻（原始から近世）、平成３０年に下巻（近代･現代）の２巻発刊を予定していたが、１巻にまとめることになった。一般に自治体史の通史編は、原始・古代からはじまり現代までを扱っているが、小金井市では、古代・中世の資史料が殆んどなく、通史としてこの時代の記述が困難な状況がある。資・史料のない時代は、周辺地域の資料を利用して記述することになるが、小金井の通史は、現代につながる小金井村が誕生した近世初頭から始め、現代までを扱い、原始から中世までは考古資料編の中で記述する方法もあるのではないか。
【質疑･意見】
（山本委員）近隣の国分寺市・府中市には古代・中世の遺跡があると聞いているが、小金井市内には古代・中世の資料は存在しないのか。野川があり、小金井にも人がいてもおかしくないが。
（事務局）考古資料としては、横穴墓や鎌倉時代からの板碑や中国製の青磁片が出土しており、住民（土豪）がいたと思われるが、実態はよくわからない。
（根岸委員長）武蔵野の狭山丘陵の北側の所沢の辺りには、中世からの文書をもつ旧家があるが、南側には中世の文書をもつ旧家は殆んどなく、戦国末から江戸時代の初めに他から移ってきたという伝承がある。これは、戦乱の一つの結果かもしれない。この地域にいた勢力が、後北条氏について、小田原や八王子に移っていなくなったことも想定される。
（山本委員）古代・中世に街道はあったか。
（根岸委員長）大きな道として鎌倉街道があった。

（山本委員）鎌倉街道のほかは、林だったのか。
（根岸委員長）林というより、武蔵野と呼ばれる草原であったといわれている。
（山本委員）この頃、富士山は噴火していたのか。
（根岸委員長）富士山は先史時代から何度も噴火を繰り返してきた。中世の噴火はよくわからないが、江戸時代の宝永年間に大噴火があった。
（山本委員）富士山の噴火によって、植生が変ったということはあるのか。
（根岸委員長）３００年・４００年で大きな植生変化が起きたということは考えにくい。
（山本委員）これまで資料編の発刊までには、４・５年かかっているが、考古資料編は２９年度に発行できるのか。
（事務局）これまでの資料をまとめることで、できると考えているが、早急に考古部会の体制を整えていきたい。
（根岸委員長）小平市の通史編は、江戸時代にできた新田地帯ということもあり、近世から始まっているが、小金井市の通史編の構成については、今後、各部会間で協議していく必要がある。
他に質疑がなければ、これで市史編さん委員会を終了する。

２　次回の会議日程
平成２７年５月１８日（月）　午前１０時から